

これからも末永く交流を 宮崎県五ヶ瀬町職員が交流研修



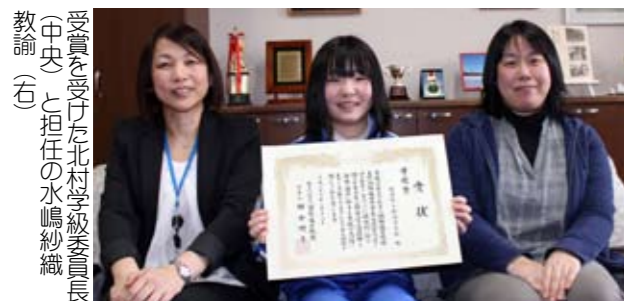
役場庁舎であいさつする菊池さん（右）と新田さん

本町と姉妹町の宮崎県五ヶ瀬町は毎年お互いの町で交流研修を行っており、今年は、五ヶ瀬町から教育委員会の菊池光一郎主査と総務課の新田純也主事が本町を訪れ、1月21日から24日までの4日間、町内の公共施設や福祉施設の視察、各課での実務研修を行いました。

研修を終え、菊池さんは「冬の新得を満喫させていただきました。これからも機会をつくってぜひ新得に来たいです」。新田さんは「今回新得町で学んだことや感じたことを五ヶ瀬町で活かしていきたいと思います」と語っていました。今後も姉妹町として、末永く交流を続けていきます。

新得中が学校賞

JICA国際協力エッセイコンテスト



受賞を受けた北村学級委員長（中央）と担任の水嶋紗織（右）

国際協力機構（JICA）主催の「中学生エッセイコンテスト」で新得中学校（高橋敏宏校長）が学校賞を受賞しました。コンテストは昨年実施され「世界と日本の幸せのために一私ができること、すべきこと」をテーマに全国から4万4289点の応募がありました。

同校の1年生は、総合的な学習の時間の一つで「国際理解」に取り組んでいます。昨年7月にJICAで施設の概要や開発途上国の現状を学び、全34人が応募。2月6日に、北海道国際センター（帯広）の石井優子さんが同校を訪れ、学級委員長の北村有結末さんに賞状とメダルを手渡しました。北村さんは「貧しい国の人の状況を知り、自分たちにできることを考えるきっかけになってよかった」と話していました。

カレンダーの重機がっこいい 前田・荒井共同企業体が保育所にプレゼント



北電の新岩松水力発電所の工事を請け負っている前田・荒井共同企業体が、カレンダーの紙で折ったクレーンなど、折り紙の重機4台とカレンダー20本を新得保育所にプレゼントしました。

1月16日に同企業体の西村崇さんが保育所を訪れ、「工事現場で使用されている重機を職員で作りました。みなさんもカレンダーに絵を描いたり、重機もぜひチャレンジしてみてください」と、重機の写真や折り方の説明書とともに年長の園児たちに手渡しました。園児からは、同企業体に感謝の手紙が手渡され、遠藤慧くん（5歳）は「アースドリルが一番がっこいい。早く作ってみたい」と笑顔を見せていました。

やっと冬がやってきた！ 新得山スキー場が待望のオープン



スキー学習を楽しむ児童たち

雪不足の影響で今季の開業が大幅に遅れていた新得山スキー場が、1月29日にオープンしました。

記録のある昭和55年度からで最も開業が遅かったのは、平成20年の1月26日でしたが、それを更新し、過去30年間で最も遅いオープンとなりました。

この日は、新得小のスキー学習が予定されており延期が心配されていましたが、1月26日と28日のまとまった降雪によりなんとか間に合い、児童たちが元気に初滑りを楽しんでいました。

シーズン券は通常の半額の中中学生以下2700円、高校生以上1万円。営業終了日（3月9日予定）は、リフト代が無料となっています。

ますますの発展を願って 新生の2町内会が創立55周年記念事業



創立55周年を迎えた「新生の2町内会」（阿部靖博会長）の記念式典・祝賀会が1月12日、新得保育所で開催されました。浜田町長や連合町内会の岩谷吉彦会長、昔一緒の町内会だった西和会の芳賀直樹会長らを迎え、70人の会員が集いました。

式典で、阿部会長は「これからもできることから、会員みんなの英知を寄せ合い、いつまでも住み続けたい町内会を」とあいさつ。続いて45年以上区域内に居住する「永年居住会員」16人と、歴代の町内会長4人に感謝状を贈りました。

式典に続く祝賀会では、会員の踊りやカラオケ、ビンゴゲームなどを行い、お祝いムードいっぱいでした。

同会では、3月の発行に向けた記念誌「新生の2代会史」の製作に取り組んでいます。製作には夢基金を活用し、阿部会長は「自会だけでなく、全町的な町内会の歴史や活動の足跡を掘り起こし、町内会の元気を紹介したい」としています。



新年度の一般会計予算規模は、新得中学校改築事業がほぼ終了して、外構工事を残すのみとなったことなどに伴い、今年度当初予算より減少しておよそ61億円台となる見込みです。

主な事業としては、東根市との友好都市提携20周年記念事業、プレミアム商品券の発行、出産祝い金、聴覚障がい者養護老人ホーム改築事業、農業基盤整備事業、全町教育事業などを予定しています。

予算案は3月上旬から開催される定例町議会で慎重な審議が行われますので、ぜひ傍聴にいらしてください。

ひと足早い春を演出 東根市から啓翁桜が届く



足早い春の訪れを多くの方々に楽しんでもらうようと、役場、屈足総合会館、公民館、図書館など7カ所に飾らせていただきました。そんなひと届いてすぐに淡いピンク色の花が咲き始め、花が散る1月下旬ごろまで訪れた人たちの目を楽しませました。

町の友好都市である山形県東根市から毎年送られている「啓翁桜」の切枝が1月10日、役場に届きました。

啓翁桜は真冬に咲く桜で、今冬も厳しい冷え込みが続く中、きれいな花を咲かせました。そんなひと

平成26年度予算編成が大詰め

総額は61億円台の見込み

昨年11月上旬から始まった新年度予算編成作業は、総務課長・地域戦略室長、副町長査定を経て、最終の町長による査定が1月下旬に終了し、全体の集約も大詰めを迎えています。

浜田町政3期目のスタートとなる平成26年度の予算編成は「明日の町民の生活を支えること」を視点に、第7期総合計画の確実な推進に向けて、各分野において抱え

る課題や町民ニーズをそれぞれの所管課が的確に捉えたいと、将来を見据えた施策を展開していくことを基本に進めています。

このため、「雇用・経済・産業の活性化」「安心・安全なまちづくり」「次代の人づくり」「協働」の4つの柱を中心とした施策と、町長の町政における「15の重点施策」の実現に向けた事業の予算化に取り組んでいます。